

めざす子ども像 幼小中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども**取組目標** 地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる
～地域の豊富な資源を活用して教育レベルの向上に努める～

今年度の取組紹介

近隣に有名私立小中一貫校が3校もあり受検する子どもが増えつつある中で、この時期・この時をこの地域で良かったとおもえる、しいては「自信」につながればと、中学生対象ですが(1)放課後学習に取り組んでいます。英語・数学・国語の3教科ではありますが、地域の方をお願いして数学・国語は毎週1回、英語は、隔週1回開催しております。部活動・塾に通う子も多く出席者は、バラバラですが、地域の方とその子が苦手とする個所を中心に開催しております。



また、(2)生涯スポーツとしてテニスの指導も行っております。小学生(高学年)・中学生が対象ですが、現在は、小学生のみの参加です。コート3面を利用しても参加者は多く、経験者と新人を隔週で指導する状態です。隣接する野球部のボールが飛んできて怪我がないよう、保護者の方々にもご協力いただいて安全管理をお願いしております。



今年度のまとめ

各活動も少しずつ定着してきたと考えられます。地域協議会が何をしているのかは、子どもたちとのかかわりから分かっていただけようになってきました。しかし、「学校の中に足を運んでいただく」ということにはつながっていないように思われます。子ども達は、挨拶も、お礼も、声掛けもすすんで掛けてくれます。地域の皆さんにも肌で感じていただけるよう、新たな活動として今年度から中学校の図書室の地域開放があげられます。図書を借りるというだけでなく、普段の学校の様子、先生方のお顔をも、知っていただきたいと思います。

来年度に向けて

地域の高齢化は避けられず、今後の活動のためにも今年度までの実績を礎にボランティア・コーディネーターの発掘に力を入れます。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で

自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる

今年度の取組紹介

- ・授業において「繋がり合い、学び合う集団」を育成するため、計画的に校内授業研究会を実施し改善に努めました。また、広く地域や保護者にも公開し、理解と協力を得ました。
- ・未来を担い自立できる生徒の育成を目指し、本年度も生徒自ら考え取り組む事業を行いました。具体的な内容として、リーダー育成のため生徒会が中心になって行うリーダー研修会、クリーン作戦や苗植えなどを実施しました。特に、プロジェクト「ひまわり」では、生徒会・保護者・地域が一体となって、阪神淡路大地震の中から育った「はるかのひまわり」を育て、採取した種を、校区だけに止まらず、広く地域に配布しました。1学期に登天ポールさんをお招きして行った人権講演会で「いじめ撲滅」「自殺反対」をテーマに「自分の夢」を考えるよい機会になりました。
- ・キャリア教育の一つとしての職場体験学習の事業所開拓や事業所の休業日における環境整備事業（花壇の整備）に協力を得て取り組みました。
- ・日常的な学校生活における支援の充実として、職員会議中の部活動見回り隊や図書館ボランティアによる昼食時の図書館開放や整理等にも取り組んでいただきました。また、本年度より図書館を地域にも開放し多くの方に来校していただきました。
- ・学力向上プロジェクトとして昨年度国語、数学、英語の3教科で月、水の放課後、土曜日の午前中に地域在住の指導者を招き、基本でつまずく子供たちに学習の場所を提供し基礎学力の向上に努めました。

今年度のまとめ

- ・今年度もコーディネーターや多くのボランティアの方々の支援を受け、一つひとつの取り組みが計画的に進められました。また、一層の工夫と改善を加えていただきより充実したものになりました。特に学力向上プロジェクトも軌道にのり、少数ではありますが生徒にも定着してきました。
- ・広報紙の発行をはじめ、ホームページの充実を図ることで、これまで以上に協議会の取り組みの啓発が進みました。

来年度に向けて

- ・来年度は、これまでの取り組みを継続しながら、昨年度動き出した「学力向上プロジェクト」にさらなる改善を加え地域と連携して取り組む予定です。地域の方の講師を探すことが困難ですが、コーディネーターを中心に進めていきます。
- ・「ホタルフェスタ」など校区の幼小中が連携して取り組める事業を模索し実行することや、地域の「夏祭り」等を通して小中一貫教育の一役を担っていきます。

めざす子ども像 **幼小中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標 **子どもたちをはぐくみ、地域や保護者で子どもたちを温かく包み込みながら見守る活動を通して地域全体がつながっていくことを目標とする。**

今年度の取組紹介

入学まもない新一年生の下校の引率や校外学習の補助など、学校だけではできない部分を協力してもらうことにより、行事や活動を円滑に進めることができました。様々な場面で、子どもたちは地域の方々と関わりを持つことにより、学校内だけではなく、地域の中で、親しみを持って地域と関わりもったり、こども園との交流をしたりして 地域とのつながりを深めることができました。



今年新たに取り組んだことといたしまして、キャリア教育と関連付けてボランティアの子どもたちが「鶴舞フラワー」という会社をつくり、地域の方が育てられた花の苗を学期に1回販売しました。当日販売するだけでなく、事前に集まり、原価を計算し、それをもとに売価を決め、値札作り、ポスター作りなどを行いました。子どもたちは、「準備は大変だったけど、お花の苗が売れて楽しかった。」「またやってみたい。」などと話してくれました。



また防災教育の一環として地域の方に、高学年の子どもに講義いただきました。それをもとに「避難所で自分たちにできること」を考え、音楽会のあとに地域の方や保護者の前で発表しました。児童集会では、低中学年の子どもたちにわかりやすく発表してくれました。

民生委員の方と連携して校区のお住まいの独居老人の方に運動会の招待状を送りました。運動会では例年より敬老席がにぎやかでした。



読書好きの子どもを増やし、進んで読書をしたいという思いを育てたいと、図書ボランティアの皆様や、お話の会の皆様に、子どもたちに読ませたい本ということで選んでいただき、たくさんの本を購入しました。図書ボランティアの皆さんには、毎月、それを子どもたちに紹介するなど環境整備に取り組んでいただき、誘い合って図書室を訪れる子どもたちの姿が増えました。

今年度のまとめ

鶴舞フラワーの活動を通して、子どもたちは地域の方と一緒に本格的なお仕事体験ができました。

低学年は、ボランティアの方々の登下校時の見守りや付き添いなど見える姿から、中学年には、自分たちがしてもらっていることを考える、高学年には自分たちができることを考えることで、自分たちが安心して毎日の生活を送ることができていることに気づき、感謝の気持ちを表現するようになりました。

来年度に向けて

次年度は、高まってきた子どもたちの読書への関心をいっそう高めるためにも、お話の会と読書活動のつながりを深め、来年度も引き続き読書活動に力を入れていきたいと考えています。鶴舞フラワーのような「教室と社会をつなぐ」活動をこれからも計画していきたいと思います。毎年、多くの費用と活動をいただいている学校環境の整備についても、子どもたちが、豊かな気持ちになり、誇りに思える美しい学校を維持できるように、一層充実させていきたいと考えています。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で 自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる
～自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～

今年度の取組紹介

◆環境整備事業 「みどりの輪」

学校の環境整備を目的として、学校・保護者・地域が連携をして、環境ボランティア「みどりの輪」に取り組みました。年5回（5月、7月、9月、11月、2月）、児童と共に活動できるように中休みを含むように時間調整しました。地域や保護者の方には、マスコットキャラクターの缶バッチを付けてもらい、親しみと連帯感をもてるように工夫しました。今年度は、環境コーディネーターが地域に呼びかけてくださったおかげで大掛かりな作業も実施でき、環境がより整備されました。参加者の活動の様子を見て、児童も熱心に活動でき、短いですが有意義な時間を共に過ごせました。

◆読書推進事業「図書室の整備」

今年度は西部図書館の司書と読み聞かせボランティア「おはなしのへや」の方、児童とが連携して図書室の整備に取り組みました。児童が本を選びやすいように、机の配置や本の並びを換えたり、表示をして分かりやすくしたりしてくれました。また、児童と共に掲示物を作成し、図書室を飾り、楽しい空間を創ることができました。



児童と図書館司書で掲示物作り

今年度のまとめ

環境ボランティア「みどりの輪」の活動により、校庭の木や花壇、運動場などが整備できました。特に、今年度は地域の方が進んで機材を使用して木の剪定などをしてくださったので、大掛かりな作業ができ、美しく安全な環境のもとで活動できました。また、中休みを活用して実施したため、児童が地域の方と和やかに交流する場面が見られ、児童の規範意識の醸成にもつながりました。

さらに今年は、西部図書館の司書の方が中心となって図書室の環境整備に取り組み、児童の読書への関心をさらに引き出してくれました。児童も自分から進んで仕事を手伝うなど、意欲的に活動に取り組みました。

昔遊びでは、昨年の地域の方の意見を生かして改善し、学びを深めることができました。

来年度に向けて

環境ボランティア「みどりの輪」については、来年度も5回実施（5・7・9・11・2月）を目指すと共に、ホームページなどを活用して更なる参加を呼び掛けていきたいと思います。

体験的な学習推進事業については、学年の発達段階に応じて、地域を生かした教材研究に取り組んでもらいたいと考えています。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で、自ら 考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

様々な感動体験を積み重ね、豊かな心や身体、主体的に取り組もうとする意欲を育み、親子、地域がともに楽しめる幼稚園づくりをする。

今年度の取組紹介

体操教室



年5回未就園児は2回インストラクターの先生に来ていただき実施しています。運動会ではフィナーレのダンスとして先生の指導の下で踊り、1月には保育参観で成果を発表しました。ダンスやバルーン、ボールを使ったバランスやリズム体操など楽しく体を動かし、体力向上を目指しています。先生の軽快で明るい雰囲気の中、子どもたちは常に笑顔で体を動かす楽しさを全身で感じながら活動しています。

音楽鑑賞会・お楽しみ会

地域の方をお招きして、奈良観光大使の氷置晋さんとぴよっきーによるピアノの演奏と歌を親子で楽しみました。可愛いぴよっきーと一緒にきれいな歌声に聞き入り、知っている曲は一緒に歌いました。また、お楽しみ会には未就園児親子と一緒にゲストティーチャーによる腹話術を楽しみ、サンタさんからのプレゼントもあり大喜びです。



感動体験の積み重ね

野菜の栽培

園庭の畑で四季折々の野菜を地域の方に教えていただきながら育てています。水やりや草抜きなどの世話も頑張り、収穫物は家庭で持ち帰りお弁当や家庭のおかずとなり、野菜嫌いの子ども達が減ってきました。野菜の生長の様子を大切に见守り、収穫の喜びを味わい、食育につなげることもできました。

今年度のまとめ

- 地域や様々な人との交流により、その温かい雰囲気の中で優しい言葉かけや励ましなどを通して周りの人と支え合う気持ちや感謝の気持ち、人と関わる心地よさなどを感じ、思いやりの気持ちが育まれています。自分から進んで挨拶をしたり話しかけたりするコミュニケーション能力も少しずつ育ってきました。
- 体操、ダンス、絵本、楽器、英語、制作等、園内外で経験したことを遊びの中に取り入れ、遊び方を考えたり友達と相談したりして主体的に取り組み、意欲的に遊ぼうとする子が増えました。
- 自由参観や保育参加、親子活動をしていくことで、親子で共通の会話が増え、子どもたちの成長を身近に感じ、保護者の教育や一緒に体験することへの意識が高まっています。
- 感動体験の積み重ねにより体力・食育・言語・表現・生活習慣等総合的な成長がみられました。

来年度に向けて

- 子育て支援の充実や家庭教育の向上を図るため、地域コーディネーターの方との連携を深めていくと共に、今年度の取り組みを継続して実践していくことと、閉園に向けての方針や計画を地域や保護者と共に考えていきたいです。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども

取 組 目 標

子どもたちの興味・関心を湧きたてる体験活動の実施

今年度の取組紹介

【地域とのふれあい】

昨年同様、地域の方をゲストティーチャーとして招き、栽培から収穫まで関わっていただき、サツマイモは地域の方と一緒に焼芋パーティーで美味しくいただきました。また、タマネギとマリーゴールドの販売では、コーディネーターが地域の商店と園をつなげてくださり、販売活動を通して、買ってもらえる喜びと同時に売れないもどかしさを感じ、キャリア教育につながる貴重な体験となりました。

【小学生との交流】

年間 4 回計画されている幼小連携の活動に加え、小学生の音楽会の練習の様子を参観することで自分たちの音楽会への意欲を高め小学生への憧れの気持ちが芽生えました。また作品展に招いたときは、小学生が興味を持って作品を見てくれる様子に喜びを感じ子ども同士で自然な交流が見られました。



【木のおうち完成】

木製の家を改修していただいたことで、5 歳児が遊びに夢中になっていた草木染の作品や自然物を飾り、「こんなものを置いてみよう」と完成予想図を描いて進めるなど、イメージを共有しながら遊ぶことができました。

今年度のまとめ

取組紹介の他にも、老人福祉施設「ソレイユ」さんとの交流を実施し、運動会でのダンスを披露し音頭を一緒に踊った後、園で取れたポップコーンを一緒にいただきました。自分たちが興味を持って取り組んだことを地域の様々な方に見てもらい、「自分たちがしたこと誰かが笑顔になってくれる」という自己肯定感を高める貴重な体験ができました。地域の様々な人との触れ合いで子どもたちはたくさんのことを知り、自分から進んで学ぼうとする意欲や心情、態度が育ってきました。



来年度に向けて

今年度は、地域の方が身近に感じられる取組みを重ねることができ、子どもたちにとっても充実した一年となりました。「つまいいっ子だより」やホームページで積極的に取り組みの様子を発信し、地域・こども園・家庭がつながり、幼児期の子どもたちが生活する場として、ふさわしいこども園でありたいと思います。